令和７年度　泉南中学校

教育課程説明会

次第

- はじめに
- 各教科の評価規準と評価方法

①国語　②社会　③数学　④理科

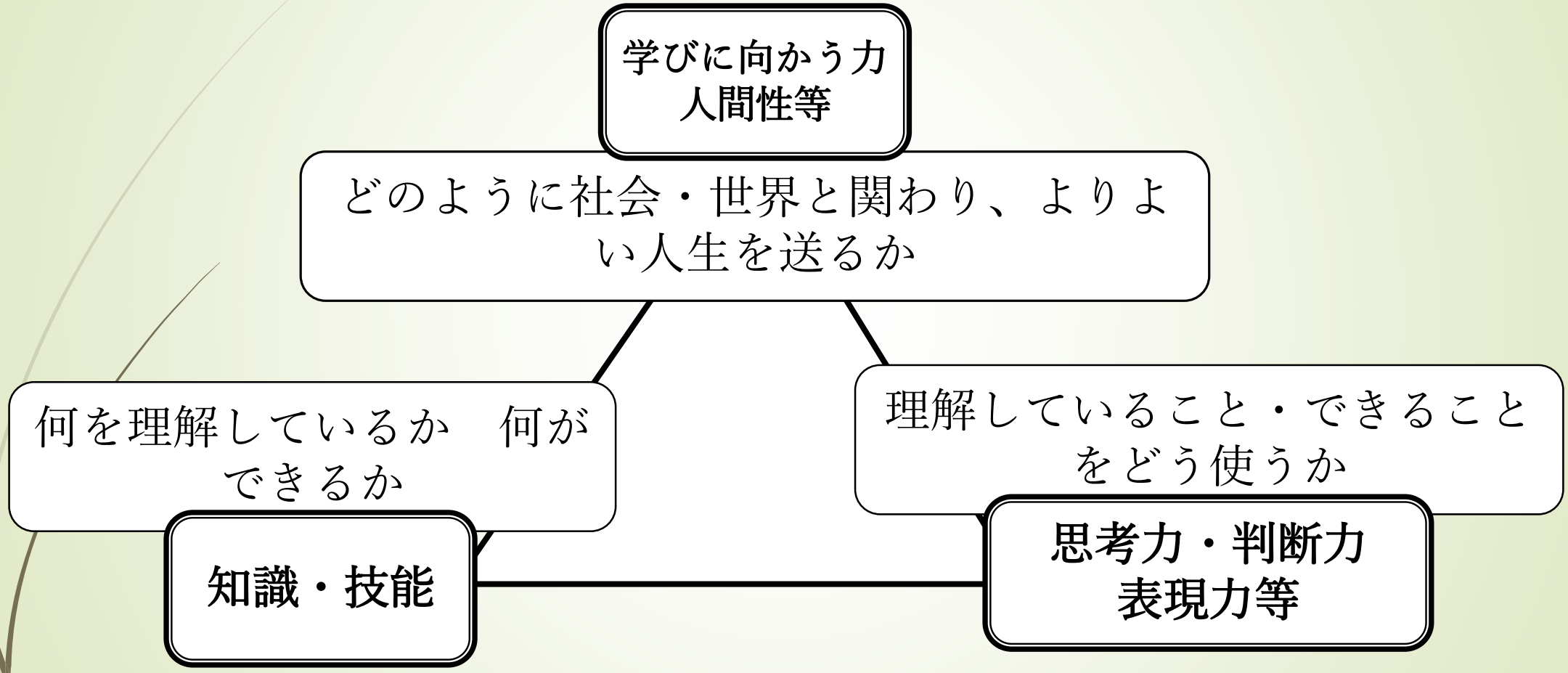
⑤英語　⑥音楽　⑦保健体育

⑧美術　⑨技術　⑩家庭

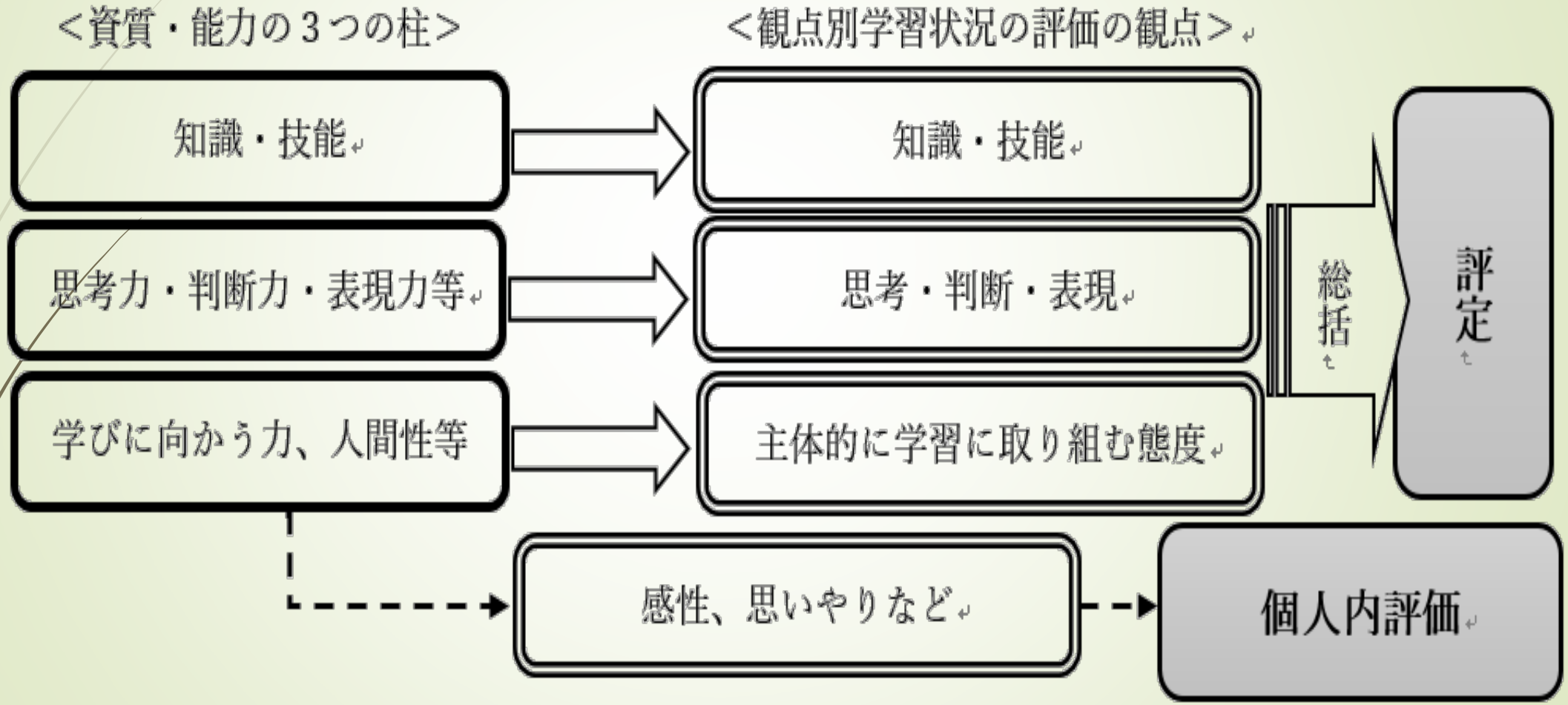
はじめに

～学習指導要領における目標と評価・評定について～

学習指導要領に示す目標や内容



「資質・能力の３つの柱」に対応する「評価の観点」



観点別学習状況の評価について

観点	観点の目標に対して	到達度
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの	８０%以上
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	５０%以上 ８０%未満
C	「努力を要する」状況と判断されるもの	５０%未満

評定について

評定	観点別学習状況評価を総括して	到達度
5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	９０％以上
4	「十分満足できる」状況と判断されるもの	８０％以上
3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	５０％以上
2	「努力を要する」状況と判断されるもの	２０％以上
1	「一層努力を要する」状況と判断されるもの	２０％未満

道徳・総合的な学習の時間の評価について

道徳

生徒の授業の様子やワークシートの記述などをもとに、生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけになるように、評価を行っています。

総合

各教科の評価と同様３つの観点について、学校が定めた学習テーマに沿った学習活動を通じて、生徒にどのような力が身についたかを文章で記述しています。

各教科の評価基準と評価方法

国語科

知識・技能

- 漢字テスト

→漢字を正確に書き、使うことができる。

- 単元テスト・定期考査

→文法や漢字などの知識を理解し、活用することができる。

思考・判断・表現

- ワークシート

→授業での学びを自分の言葉でまとめ、表現することができる。

- 単元テスト・定期考査

→筆者の主張や登場人物の心情などを捉え、適切に表現することができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ワークシート

→授業での学びを振り返り、自分の考えや意見をまとめることができる。

→授業での学びを振り返り、今後の自分の学習に生かすことができる。

- 定期考査

→授業での学びを振り返り、自身の考えを主体的に述べることができる。

社会科

社会科　評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価規準	○評価規準に則した知識・技能が身に付いているか。 ○諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめているか。	○社会的事象について考察し、表現できるか。 ○他者と意見を交換しながら、自身の考えを深めることができているか。	○授業内容について振り返りながら、学習に取り組めているか。 ○学習状況を振り返り、次に生かそうとしているか。
評価方法	○定期考査や小テストの知識・技能に関する問題の得点 ○提出物の取り組み状況	○定期考査の思考・判断・表現に関する問題の得点 ○提出物の取り組み状況	○定期考査の主体的に学習に取り組む態度に関する問題の得点 ○提出物の取り組み状況

数学科

数学科　評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○評価規準に則した内容が身に付いているか。 ○プリントの内容について、正確に表現できているか。 ○数学的に表現・処理する技能が身に付いているか	○友達に、自分の考えを説明することができるか。 ○友達から教えてもらったことを基に、自力解決できるようになっているか。	○授業の内容に対して自ら取り組んだり考えたりしようとしているか。 ○班学習や話し合い活動に参加しようとしているか。 ○学習した内容を振り返り、次に生かそうとしているか。
評価方法	○授業での取組の観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○定期考査や単元テストの知識・技能に関する問題の得点	○授業での取組の観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○定期考査や単元テストの思考・判断・表現に関する問題の得点	○授業での取組の観察 ○課題プリントやドリルへの取り組みの様子 ○定期考査や単元テストの主体的に学習に取り組む態度に関する問題の得点

理科

理科　評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価規準	○科学的な物事や現象に関する概念的な知識が身に付いているか。 ○実験や観察の操作を理解して実行し、記録ができているか。 ○身に付けた知識と実験や観察の結果を合わせ、グラフや表などに表せているか。	○実験や観察などを行う際に予想や仮説を立て、検証を行えているか。 ○実験や観察などで得られた結果を根拠に考察し表現できているか。 ○身に付けた知識や科学的根拠を使って、物事や現象について分析できているか。	○実験や観察などのグループ活動に参加しようとしているか。 ○身近な物事や現象と結び付け、科学的に探究しようとしているか。 ○学習した内容を振り返り、次に生かそうとしているか。
評価方法	○授業での取り組みの観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○定期考査や小テストの知識・技能に関する問題の得点 ○実験や観察の実技テストの評価	○授業での取り組みの観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○定期考査や小テストの思考・判断・表現に関する問題の得点	○授業での取り組みの観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○課題プリントや振り返りシート、ドリルへの取り組みの様子

英語科

英語科　～評価規準と評価方法～

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ○外国語の音声や語彙、表現、文法、　言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	○授業での取り組みの観察 ○パフォーマンステストでの取り組み ○定期考査や単元テスト、小テストの知識・技能に関する問題の取り組み	○授業での取り組みの観察 ○パフォーマンステストでの取り組み ○ワークシート等の内容や取り組みの様子 ○定期考査や単元テスト、小テストの思考・判断・表現に関する問題の取り組み	○授業での取り組みの観察 ○パフォーマンステストでの取り組み ○ワークシート等の内容や取り組みの様子 ○定期考査や単元テスト、小テスト等を含む言語活動への取り組みの様子

音楽科

音楽

１　歌唱・器楽・創作・鑑賞すべての領域において共通する学習事項

A. 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、
それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、
知覚したことと感受したこととの関わりについて理解する。

B. 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号
などについて、音楽における働きと関わらせて理解する。

A. 音楽を形づくっている要素や
要素同士の関連を知覚し、
それらの働きが生み出す特質や
雰囲気を感受しながら、
知覚したことと感受したこと
との関わりについて理解する。

音楽を形づくっている要素とは

音　色	**声や楽器などから生まれる様々な音の質のこと。** 声や楽器の音色、自然音や環境音、曲種に応じた発声、 楽器の奏法の違いによる様々な音色の違い、それらの組合せや変化などが生み出す響きなど
リズム	**音楽の時間的なまとまりをつくったり、区分したりするもの。** 拍や拍子、リズム・パターンとその反復や変化、我が国の伝統音楽に見られるリズムや間など
速　度	**基準となる拍が繰り返される速さのこと。** ふさわしい速さの設定、速度の保持や変化、緩急の対比、我が国の伝統音楽にみられる序破急など
旋　律	**種々の音高と音価をもった音を音楽的な表現意図のもとに連ねてできた音の線的つながり。** 音楽のつながり方や動き方、旋律線のもつ方向性、フレーズ、旋律装飾、音階、調など
テクスチュア	**音楽における音や声部の多様な関わり合いのこと。** 和音や和声や多声的な音楽、主旋律と副旋律（ハーモニー、かけ合い、オブリガートなど）、音の重なり方 我が国の伝統音楽にみられる音と旋律の重なり方など
強　弱	**基本的には音量の大小。相対的に捉えられるもの。** ふさわしい音量の設定、音量の保持や変化、強弱の対比、音量は小さいけれど強さを感じさせる音など
形　式	**定型化された構成法のこと。音楽としてのまとまりのある形が一般化されたもの。** 二部形式、三部形式、ソナタ形式、リトルネッロ形式などの諸外国の音楽、 音頭一同形式など我が国の音楽にみられる様々な楽曲形式
構　成	**音楽の組み立て方のこと。** 反復・変化・対照などの音楽を構成する原理、 我が国の伝統音楽に見られる「手」などの旋律型やその口唱歌を基にした構成など

知覚（＝気付く、分かる）…聴覚を中心とした感覚器官を通して、音や音楽を判別すること

感受（＝感じ取る）…音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れること

ワークシート等の答え方（思考・判断すること）

＜例＞

鑑賞：「フルートによる第二主題が、クラリネットによる第一主題より軽やかに感じられるのは、主題を演奏する楽器の音色が変わり、音が高くなり、リズムも小刻みになったからだと思いました。」

器楽：「ドンドコドンドコというリズムと和太鼓の響きや音色から、日本的で威勢よく、踊り出したくなるような音楽だと感じました。」

創作：「楽しく元気な雰囲気を感じる旋律にするために、付点音符のリズムを使います。また、音の高さを変化が小さいと、楽しく元気な雰囲気があまり感じられないので、音のつなげ方を工夫し、音の高さの変化が大きい部分も入れて作りたいです。」

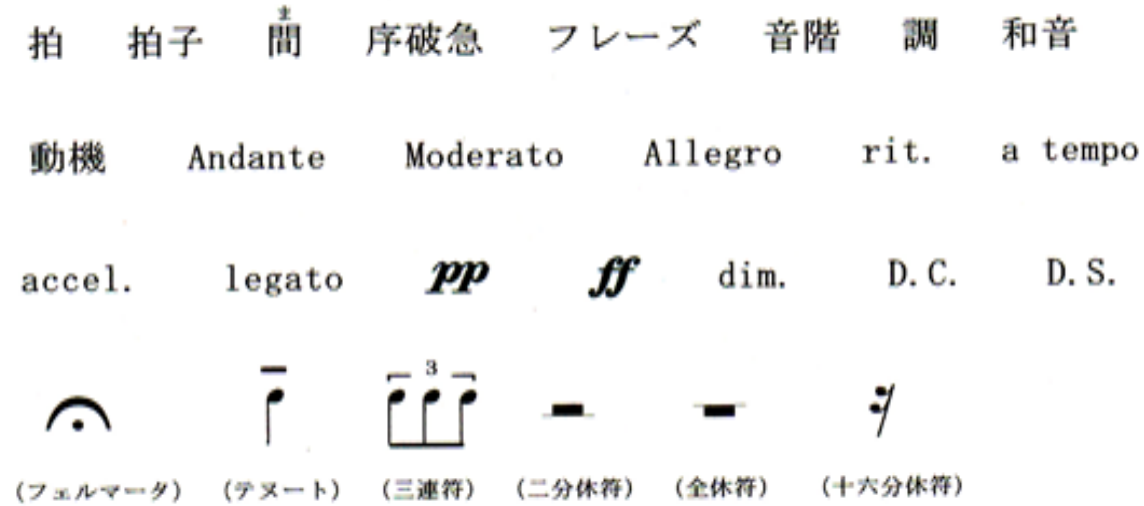
B. 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する。

音や音楽の世界を他者と伝え合ったり、共有したりする方法の一つとして、音楽に関する用語や記号などがあります。適切な用語や記号などを用いて音楽の内容について解釈したり説明したり、楽譜に書いて表したり、それを読み解いたりすることは、音楽を他者と共有するための基盤となります。一人一人が音楽に対する理解を深めていき、音楽文化の継承・発展・創造を可能にします。

小学校で学習する記号



中学校で学習する記号



音楽

2　歌唱・器楽・創作・鑑賞

すべての領域において

共通する評価・評定

評価・評定のデータになるのは、定期考査の結果だけではありません。授業に取り組む態度、実技や作品の発表結果、ワークシートや振り返りシート（自己評価カード）等の記入状況、提出物、ファイルの整理、学習道具の忘れ物の状況といったさまざまなデータに基づき、１人１人の生徒が目標をどのくらい達成したかを判定します。多様な音楽に興味関心をもち、音楽を表現・鑑賞できる力を身に付けます。

知識・技能

理解して説明する。技能を身に付ける。　赤色

●曲想、音楽の構造との関わり、曲の背景や歴史、歌詞の内容との関わり、音楽の多様性などを理解して説明する。（歌唱、器楽、創作、鑑賞）

●創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。（歌唱、器楽、創作）

思考・判断・表現

音楽に関する言葉等を使いながら発表したり、表現したりする。ワークシートにまとめる。　青色

●知覚（気付く、わかる）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚する。
●感受（感じ取る）	それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。
●思考（考える）	知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。
●判断（創意工夫する、批評文を書く）	どのように表すかについて思いや意図をもつ。音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。

主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。　緑色

●もっとこうしてみよう！なるほど自分もやってみよう！など、授業での主体的・協働的な取り組みによって学びを深めようとしているか。

●音楽の見方・考え方を働かせ、粘り強く、知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しているか。

●生活や社会における音楽の意味や役割に気付き、学びを生活や社会に生かそうとしているか。

※自分の考えは、鉛筆・シャーペンで書く。友達の意見をメモするときは、色ペンを活用すること。

保健体育科

保健体育　評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価規準	○運動の合理的な実践を通じて、基本的な技能を身につけているか。 ○個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身につけているか。 ○各運動の成り立ち、技の名称や行い方、健康・安全の留意点などについて理解しているか。	○運動や健康についての自他の課題を発見出来ているか。 ○自他の課題について、合理的な解決に向けた手立てを他者に伝えられているか。 ○課題に応じた運動の取り組み方を工夫できているか。	○健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組めているか。 ○心身の健康増進を目指し、学習に自主的に取り組めているか。 ○仲間と活動に取り組む中で、一人ひとりの違いを認め、互いの学習を援助し合えているか。
評価方法	○授業での取り組みの観察 ○単元毎の技能試験 ○定期考査や小テストの知識・技能に関する問題の得点	○授業での取り組みの観察 ○ワークシートなどの記述内容の読み取り ○定期考査や小テストの思考・判断・表現に関する問題の得点	○授業での取り組みの観察 ○ノートやプリントの記述内容の読み取り ○授業内での小テスト

美術科

美術科　評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
観点ごとの 伸ばして 欲しい力	○色や形、光、技法など、作品制作に必要な知識を理解する力 ○学んだ知識を構想（想像）し、作品に表現できる力 ○最後まであきらめずに完成する力	○作品に表現するきっかけをつかむ力 ○想像力を広げる力 ○いろんな制作方法を考える力 ○美術作品に対して思ったり、考えたり、感じたりする力 ○感じたことを言葉や作品で伝える力	○授業の課題に興味（関心）をもち、理解しようとする意欲 ○自分の思いを作品に表現しようとする気持ち ○意欲的に鑑賞しようとする気持ち
評価方法	鑑賞のレポート 課題作品 （制作のための知識が身についているか、その知識を利用した制作ができているか） 定期考査の得点	アイディアスケッチなど （制作に入るまでの表現力） 課題作品 最終ポートフォリオ 作品鑑賞 定期考査の得点	授業のようす （制作姿勢、発言内容など） 作品づくりの過程 提出物 授業ポートフォリオ （制作過程の振り返り・記録）

技術・家庭科

技術家庭科　家庭分野　評価基準と評価方法

■家庭的分野の「評価の観点及びその趣旨」 ※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「家族・家庭生活」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活・環境」の各分野についての知識を身につけている。習得した知識や情報を元に、表現したり技能の定着を心がける力がある。	課題作品製作への取組の計画性や工夫する力がある。 家族・家庭・地域の中から問題を見つけ、課題設定し、その解決策について計画を立てて実践し、その結果をまとめる力がある。	課題に粘り強く取り組む姿勢、自らの学習を調整しようとする姿勢、生活を工夫・想像し、実践しようとする姿勢がある。
評価方法	ワークノート 定期考査	ワークノート 課題レポート 問題発見・課題設定	ワークノート 課題レポート 製作作品 作業記録 問題発見・課題設定

技術家庭科 技術分野 評価基準と評価方法

■技術的分野の「評価の観点及びその趣旨」 ※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評価方法	タイピングテスト 定期考査 加工の技術 製作図 プログラミング <例> タブレットスタンドのわく形成について、授業内で完成させることができる。	定期考査 加工の技術 製作図 <例> タブレットスタンドの表面デザインを考え、それを加工により表現できる。	タイピングテスト 定期考査（知） 加工の技術 製作図 <例> タブレットスタンドの製作過程を、自分の工程表にまとめることができる。